

## 平成29年度 学習定着度に関する調査結果について

### <1 学年>

国語、数学ともに福岡市の平均と比べ同程度である。

具体的には以下のようなものである。

#### 【国語】（福岡市の平均と比較して）

- 観点別得点率では、「書く能力」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」が同程度であり、「話す・聞く能力」「読む能力」については、やや上回っている。
- 大問別得点率では、「読むこと（説明的文章）、漢字、文節、単語等」「読むこと（文学的文章）、漢字」は同程度であり、「話すこと・聞くこと」が同程度であり、「書くこと（漢字に関する内容）」については、やや上回っている。

#### [課題と今後の取組について]

- 「話す、聞く能力」は、効果的に提示された内容をとらえる学習活動が有効だと考える。
- 「書く能力」は、伝えたい事柄について、根拠を明確にして書けるようになることに課題があると考えます。
- 「読む能力」は、文章の展開に即して、情報の整理と内容の把握ができる指導が必要である。また、生徒同士が、文章内容をとらえ、要点を取り上げるため、互いに検討し合う学習活動も活用したい。

#### 【数学】（福岡市の平均と比較して）

- 観点別得点率では、「数学的な見方や考え方」「数学的な技能」「数量や図形などについての知識・理解」の3観点全てにおいて、同程度である。
- 大問別得点率では、「方程式」について努力を要し、「各領域の小問題」「正の数・負の数」「文字を用いた式」「比例式」「変化と対応（活用に関する内容）」は同程度である。

#### [課題と今後の取組について]

- 下位層への生徒への基礎学力をどう定着させるかが課題。
- 夏休み、冬休みは方程式を中心に宿題を出し、計算力の徹底を図った。  
また、3学期に入り学習コンクール（5教科）を実施した。学習コンクールに向けて、練習問題や予行テストを行うことで、少しずつではあるが、定着がみられたので、この取り組みを今後も継続していく。

## <2 学年>

国語、数学の得点は、ともに福岡市の平均と比べやや上回っている。昨年度も国語、数学は同程度であった。

具体的には以下のようなものである。

### 【国語】（福岡市の平均と比較して）

- 観点別得点率では、「話す・聞く能力」「読む能力」はやや上回っており、「書く能力」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」については、同程度である。
- 大問別得点率では、「書くこと（活用に関する内容）」は同程度であり、「話すこと・聞くこと」「読むこと（説明的文章）」「読むこと（随筆）」については、やや上回っている。

### 〔課題と今後の取組について〕

- 多様な作品に関心をもつためにも折にふれ、作品を紹介し読書量を増やす取り組みをする。
- 語彙力の不足が見られるので、教材の言葉の意味調べや短作文の機会を増やし、力の定着を図る取組をする。

### 【数学】（福岡市の平均と比較して）

- 観点別得点率では、「数量や図形などについての知識・理解」は上回っている。「数学的な見方や考え方」「数学的な技能」において、やや上回っている。
- 大問別得点率では、「立体図形」は上回っていて、「平行線と角」は同程度であり、「各領域の小問題」「連立方程式」「資料の活用」「一次関数」「数と式（活用に関する内容）」については、やや上回っている。

### 〔課題と今後の取組について〕

- 観点別得点率から、技能面の向上と習得方法の改善が必要である。
- 大問題得点率において、「連立方程式」の応用問題の解法をしっかりと押さえることが課題であり、取り組みを必要とする。